

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	1 キリスト教主義教育（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	1.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。	
要素		
小項目	1.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1)方針、実施内容	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. ミッションステートメントを基本とする学院のキリスト教主義教育の理念の具体的なプログラム化	→キリスト教主義教育を具体化するプログラム企画を整理し、年間を通じた開催計画を明示し、チャペルアワーなども含めて、ほぼ日常的にそれが実施される体制を確保する。	B
2. ミッションステートメントを軸とするキリスト教主義理解の学院構成員への浸透	→キリスト教主義理解を提供するプログラムへの参加者数を把握し、学院構成員の半数を超える出席者が得られるよう、奨励する。	C
3. キリスト教主義教育の成果として、Mastery for Serviceを体現しうる存在としての具体的な行動への奨励	→Mastery for Serviceを体現するモデルとなる存在などを積極的に紹介するとともに、その範に従った学院構成員の活動を積極的に顕彰し、学院としてその活動の全体を把握する体制を整える。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

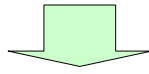
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目1.0.1	(現状説明) 大学院においては、学部宗教主事に相当する宗教主事を個別に任用していないが、宗教主事から担当者がえられて、上ヶ原キャンパスで大学院チャペル、独立大学院授業が多く開講される大阪梅田キャンパスでのチャペルをそれぞれ運営している。
☆ 小項目1.0.2	(現状説明) 本学の教育は、キリスト教主義にもとづいており、大学院においてもチャペルが実施される体制が取られている。この理念にそって、上記のとおり、上ヶ原キャンパス・大阪梅田キャンパスでチャペルが主に大学院対象で実施されている。また、学部を中心に運営されるチャペル・キリスト教行事は、基本的に大学院にも開かれたものである。このような、全学のキリスト教関連諸行事は、大学宗教主事をコンビーナとする大学宗教主事会で企画・実施している。各学部でのチャペル運営については各学部の宗教主事が責任者であるが、全体の調整・情報交換は大学宗教主事会で行っている。新基本構想にもとづいた新中期計画（法人・大学）が策定され、キリスト教主義教育についても、建学の精神の浸透・展開に寄与することが期待されているので、2010年度4月以降、大学宗教主事会において対応を検討する準備をしている。また、建学の精神をより明確に示し、それにもとづいた教育を行うという課題については、新中期計画（法人・大学）で設置された、ミッション推進委員会に、学長補佐・大学宗教主事がくわわり、学院と調整をしながら、キリスト教主義にもとづいた本学の教育を内実化するための具体的方策を準備・検討している。
☆ その他	2009年度のあらたな取り組みとして学長室が実施主体となり、「《学生による企画》の公募～あなたが実践するMastery for Serviceを支援します～」を募集した。その趣旨は、建学の精神にかなう学生の活動を支援すると共に、その活動を広報して、本学の教育が目指すところを学生の主体的な活動を通して学内外に示すことであった。この公募には71件の応募があり、19件が採択・実施されて、その内の1件が大学院からの企画であった。学生の企画の募集は、大学院生も対象として、2010年度も実施される。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	



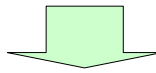
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○上ヶ原キャンパスや梅田キャンパスでの「チャペル・アワー」の実施は評価できます。また、Master for Serviceの応募に院生が参加し1件の採択があったことは大学院での活動の励みとなり評価できます。

## 【学内委員】

○大学院におけるキリスト教主義理解、特に本学出身ではない入学生に対しどのように行うかは難しい課題ではありますが、その実施に向けた不断の努力が必要と思われま。

○目標3の進捗状況は学部では「B」ですが研究科では「C」です。この違いについて説明してください。

○「指標」はより具体的に修正していく(企画目標数、参加者目標数など)ことを検討してください。

○2008年度の自己点検・評価においても触れていますが、キリスト教主義教育の成果を測定するための指標を採用すべきか難しい問題ですが、施策の効果を測らなければ評価が出来ません。これに関しての記述が望まれます。

○小項目1.0.1は組織・体制について、小項目1.0.2は実施について問われています。現状説明において、実施内容を明示しなければ組織・体制について説明しにくいことは理解できますが、小項目で問われていることについて少し整理し説明していただければと思います。

○学部の現状説明とほとんど同じことが述べられています。例えば、司法研究科、経営戦略研究科、言語コミュニケーション文化研究科のような宗教主事のいない研究科についての現状説明が望まれます。

○《学生による企画》は「その他」に記述されています。大学での記述箇所が違いますが合わせる必要はありませんか。

○目標についての現状説明を加えていただければ、なおわかり易いと思います。

○目標の進捗状況が「C」のものもあります。改善すべき事項はないのでしょうか。

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

#### V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

1.0.0.S1	在学生のうち、キリスト教主義教育について、関西学院でキリスト教に触れることで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けていると思う人の比率
1.0.0.S2	卒業生のうち、大学時代にキリスト教関連科目やチャペルで学んだことや経験が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
1.0.0.S3	チャペルの種別と開催回数
1.0.0.S4	宗教センターの活動実績
1.0.0.S5	卒業生のうち、関西学院でキリスト教に触れたことで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けたと思う人の比率
1.0.0.S6	在学生のチャペルへの出席頻度
1.0.0.S7	在学生のうち、キリスト教主義教育について、チャペルに出席したことが自分にとって有意義だったと思う人の比率

<個別的な指標>
